

# 農作物病害虫発生現況情報（6月）りんご編

## 1 モニリア病

(1) 6月前半の巡回調査では、発生が確認されなかった（平成1.0%）（図1）。

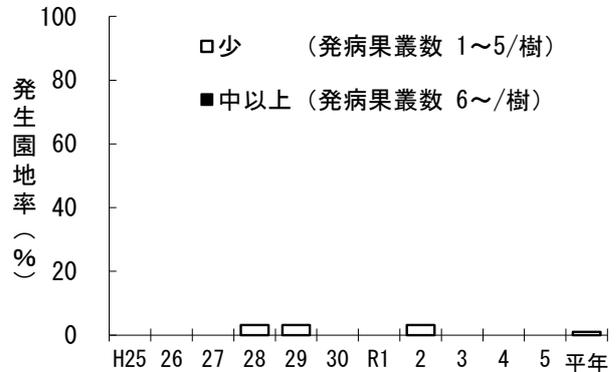


図1 モニリア病の発生園地率の年次推移  
（6月前半、実ぐされ及び株ぐされ）

## 2 斑点落葉病

(1) 基準圃場（北上市成田、スターキングデリシャス、無防除）では、初発生は6月第1半旬であった。新梢葉では6月第3半旬から第4半旬にかけて急増した（図2）。

(2) 6月後半の巡回調査では、発生園地率は51.6%（平成18.1%）で平成より高かった。また、発生程度中以上の園地は12.9%（平成0.3%）で平成より高かった（図3）。

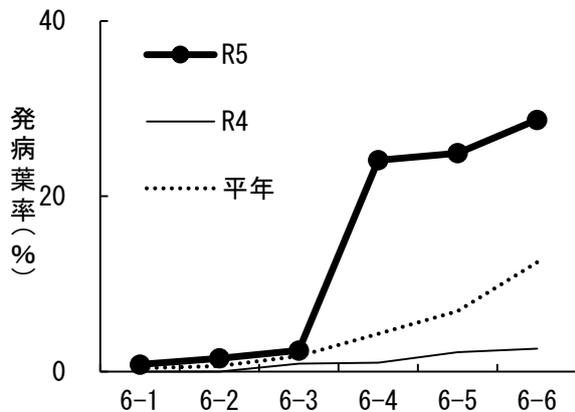


図2 基準圃場における斑点落葉病の発病葉率の推移  
（半旬別、スターキングデリシャス、新梢葉、無防除）

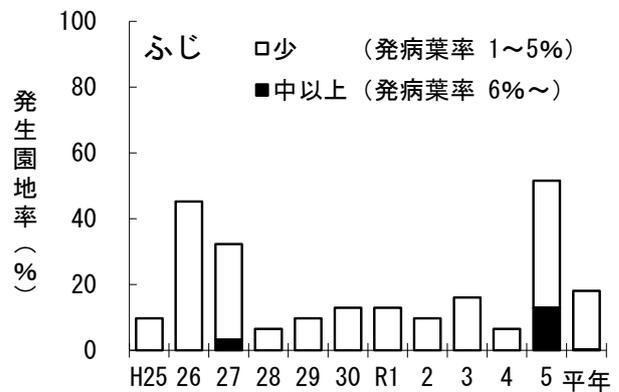


図3 斑点落葉病の発生園地率の年次推移  
（6月後半、新梢葉、ふじ）

## 3 黒星病

(1) 6月後半の巡回調査では、新梢葉の発生園地率は12.9%（平成8.1%）で平成よりやや高かったが、発生程度中以上の園地は確認されなかった（図4）。

(2) 地域別では、県中部でのみ発生が確認された（図5）。

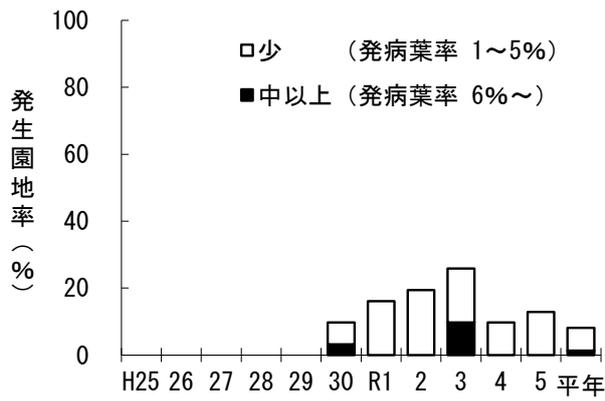


図4 黒星病の年次別発生園地率  
(6月後半、新梢葉)

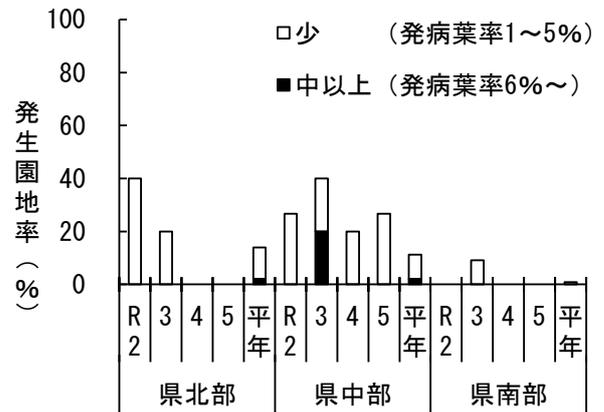


図5 黒星病の地域別発生園地率  
(6月後半、新梢葉)

#### 4 赤星病

(1) 6月後半の巡回調査では、発生は確認されなかった(平年4.2%) (図6)。

#### 5 うどんこ病

(1) 6月後半の巡回調査では、発生は確認されなかった(平年1.3%) (図7)。

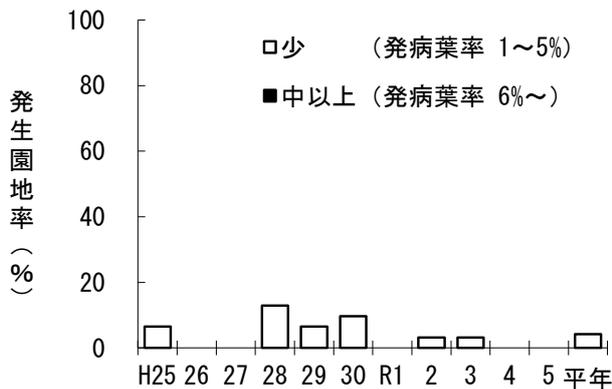


図6 赤星病の発生園地率の年次推移  
(6月後半、新梢葉)

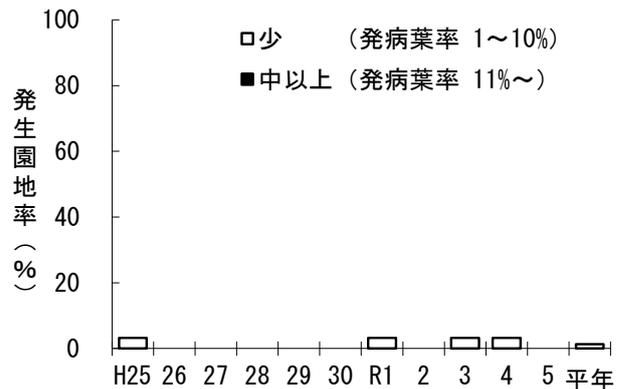


図7 うどんこ病の発生園地率の年次推移  
(6月後半、新梢葉)

#### 6 褐斑病

(1) 基準圃場(北上市成田、ふじ、無防除)では、果叢葉での初発生は5月第4半旬と過去最も早かった。6月第6半旬時点の新梢葉での発病葉率は50.3%(平年1.4%)で平年より高かった(図8)。

(2) 6月後半の巡回調査では、複数の園地で早期発生が確認され、発生園地率は16.1%(平年2.6%)で平年より高かった(図9)。

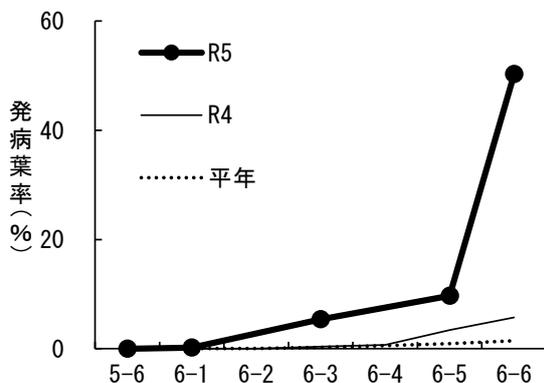


図8 基準圃場における褐斑病の発病葉率の時期別推移(半旬別、ふじ、新梢葉、無防除)

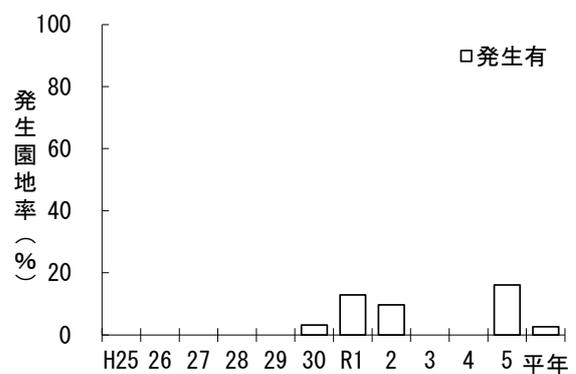


図9 褐斑病の発生園地率の年次推移(6月後半)

## 7 キンモンホソガ

- (1) 基準圃場（北上市成田、無防除）における第1世代成虫のフェロモントラップへの誘殺は、6月第1半旬から確認された（図10）。
- (2) 6月前半の巡回調査では、第1世代幼虫の発生圃地率は67.7%（平年11.6%）、発生程度中以上の圃地は32.3%（平年3.9%）でいずれも平年より高かった（図11）。
- (3) 地区別では、すべての地区で発生程度中以上の圃地が見られた（図12）。

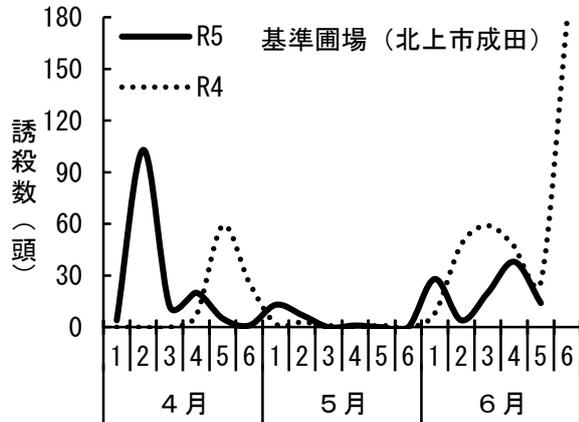


図10 基準圃場におけるキンモンホソガの誘殺状況（北上市成田、無防除）

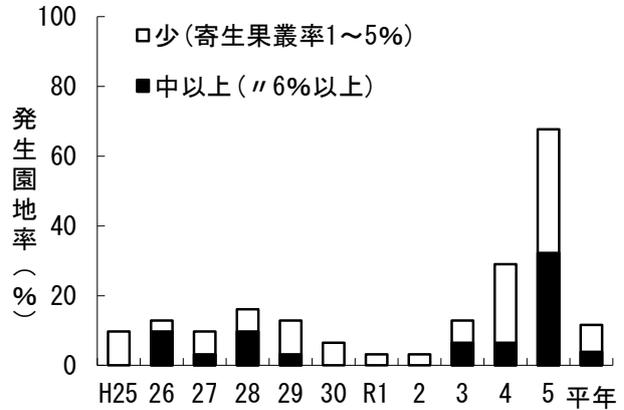


図11 キンモンホソガの発生圃地率の年次推移（6月前半、果叢葉）

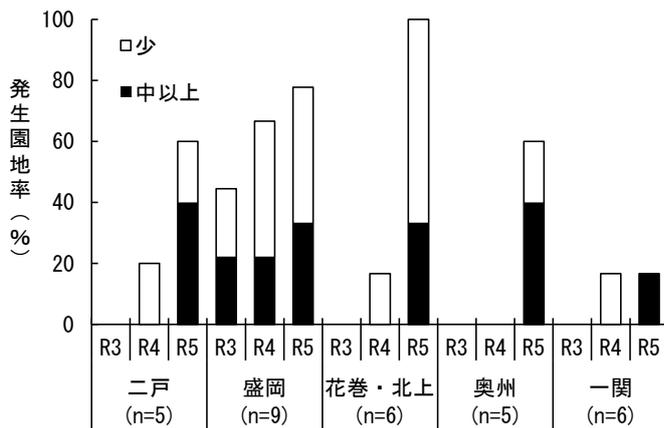


図12 キンモンホソガの地区別発生圃地率

## 8 リンゴハダニ

- (1) 6月後半の巡回調査では、果叢葉の発生圃地率は22.6%（平年24.8%）、発生程度中以上の圃地は12.9%（平年13.5%）で、ともに平年並だった（図13）。
- (2) 6月後半の地域別発生状況は、県北部において発生圃地率は平年より高かった（図14）。
- (3) 時期別では、越冬卵の発生度は平年より高かったが、その後、平年並となった（図15）。

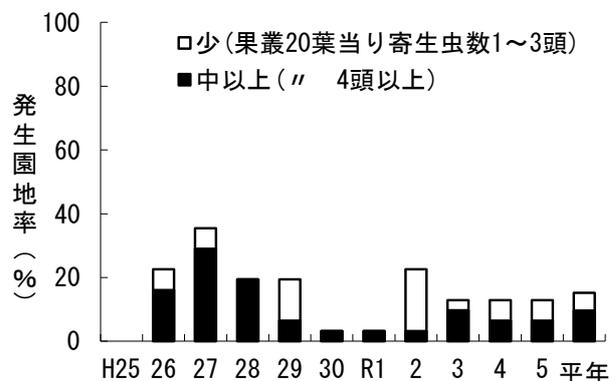


図13 リンゴハダニの発生圃地率の年次推移（6月後半、果叢葉）

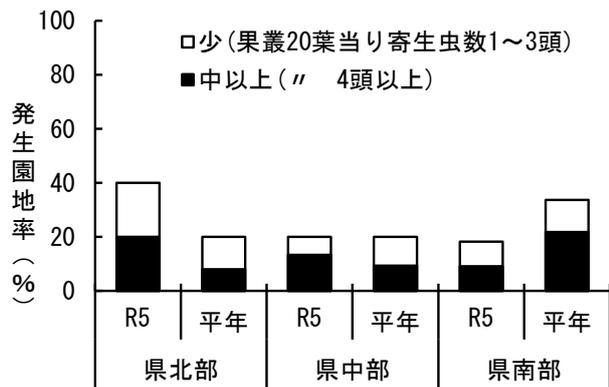


図14 リンゴハダニの地域別発生状況 (6月後半、果叢葉)

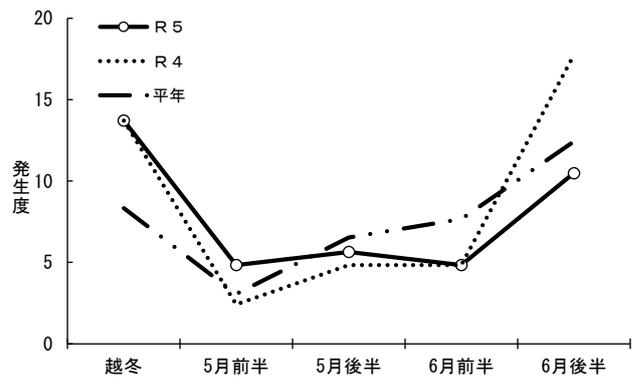


図15 リンゴハダニの時期別発生度の推移 (目通り)  
 ※発生度：(4甚+3多+2中+少) × 100 / (調査圃場数 × 4)  
 (発生程度の評価基準は時期によって異なる)

### 9 ナミハダニ

- 6月後半の巡回調査では、果叢葉の発生園地率は32.3% (平年33.3%) で、平年並だった (図16)。
- 6月後半の地域別発生状況は、県北部のすべての園地で発生が見られ、発生園地率は平年より高かった (図17)。
- 時期別では、すべての時期において、平年並に推移している (図18)。

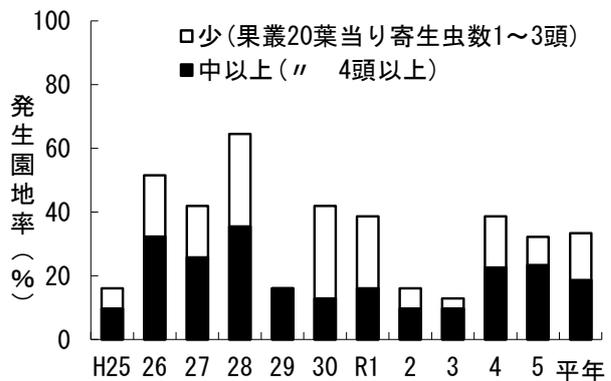


図16 ナミハダニの発生園地率の年次推移 (6月後半、果叢葉)

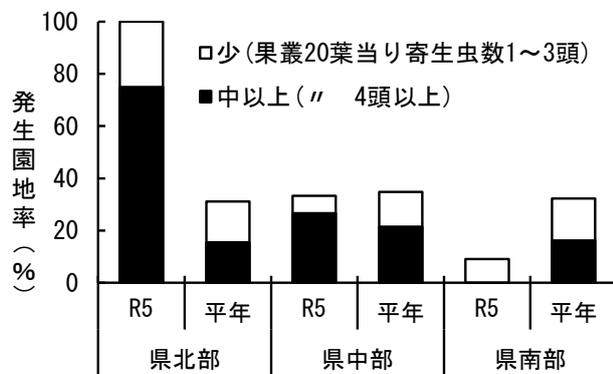


図17 ナミハダニの地域別発生状況 (6月後半、果叢葉)

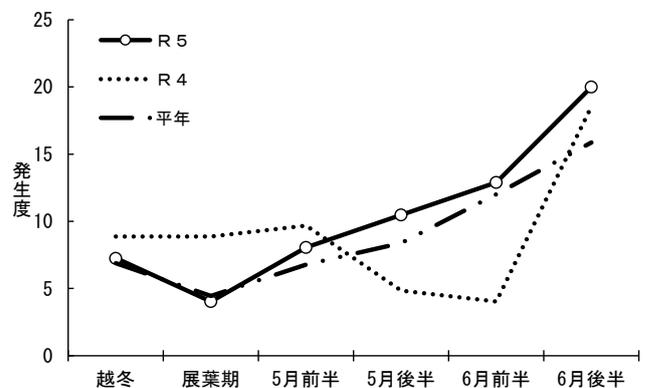


図18 ナミハダニの時期別発生度の推移 (目通り)  
 ※発生度：(4甚+3多+2中+少) × 100 / (調査圃場数 × 4)  
 (発生程度の評価基準は時期によって異なる)

### 10 アブラムシ類

- 6月前半の巡回調査における発生園地率は35.5% (平年72.9%) で平年より低く、6月後半は32.3% (平年39.7%) で平年並だった (図19)。
- 発生が見られた種は、ユキヤナギアブラムシ、リンゴミドリアブラムシであり、一部園地でリンゴゴブアブラムシが見られた。

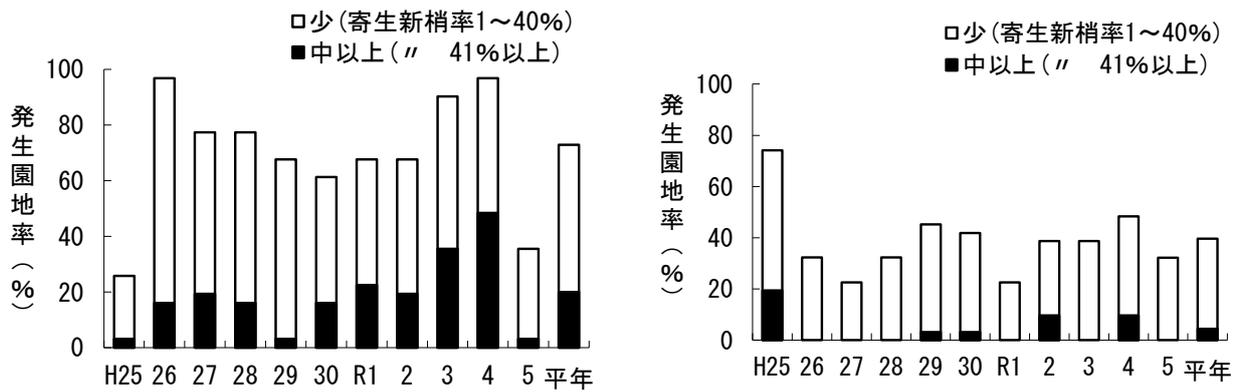


図19 アブラムシ類の発生園地率の年次推移 (左：6月前半、右：6月後半)

### 11 モモチョッキリゾウムシ

(1) 6月前半の巡回調査では、被害果叢の発生園地率は16.1% (平年5.8%) で平年よりやや高かった (図20)。

### 12 ギンモンハモグリガ

(1) 6月後半の巡回調査では、被害葉は確認されなかった (図21)。

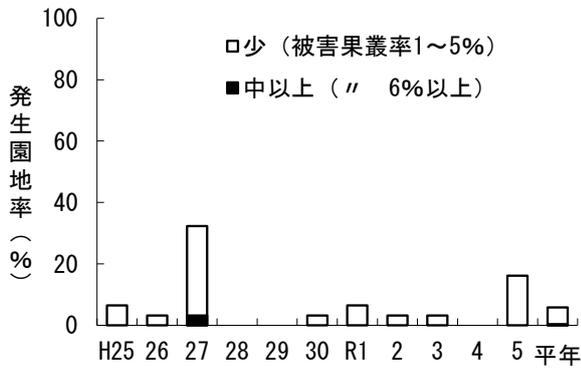


図20 モモチョッキリゾウムシの発生園地率の年次推移 (6月前半、被害果)

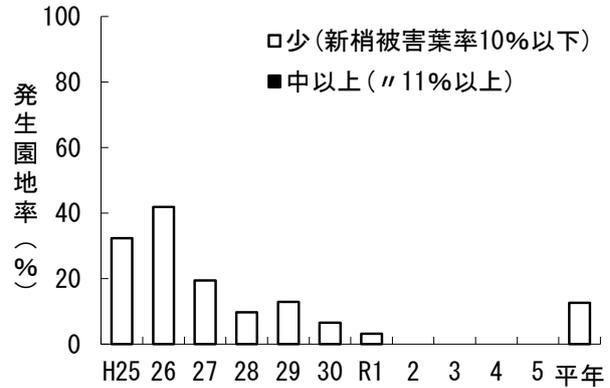


図21 ギンモンハモグリガの発生園地率の年次推移 (6月後半、被害葉)

### 13 果樹カメムシ類

(1) 6月前半の巡回調査では、被害果の発生園地率は6.5% (平年8.7%) で平年並、6月後半は29.0% (平年15.5%) で平年よりやや高かった (図22)。両時期ともに発生程度中以上の園地が見られた。

(2) 集合フェロモントラップへのチャバネアオカメムシの誘殺数は、6月第4半旬時点で、基準圃場 (北上市成田：無防除) 及び現地圃地 (盛岡市川目) では、1半旬あたり5頭以上の誘殺は確認されなかった (図23)。 ※5月下旬～6月下旬において、半旬あたり5頭以上誘殺される場合、多発年もしくは激発年となる可能性がある (令和元年度防除技術情報)

(3) 予察灯におけるクサギカメムシの誘殺は、6月第4半旬時点で、北上市成田、盛岡市川目ともに、平年並に推移している (図24)。

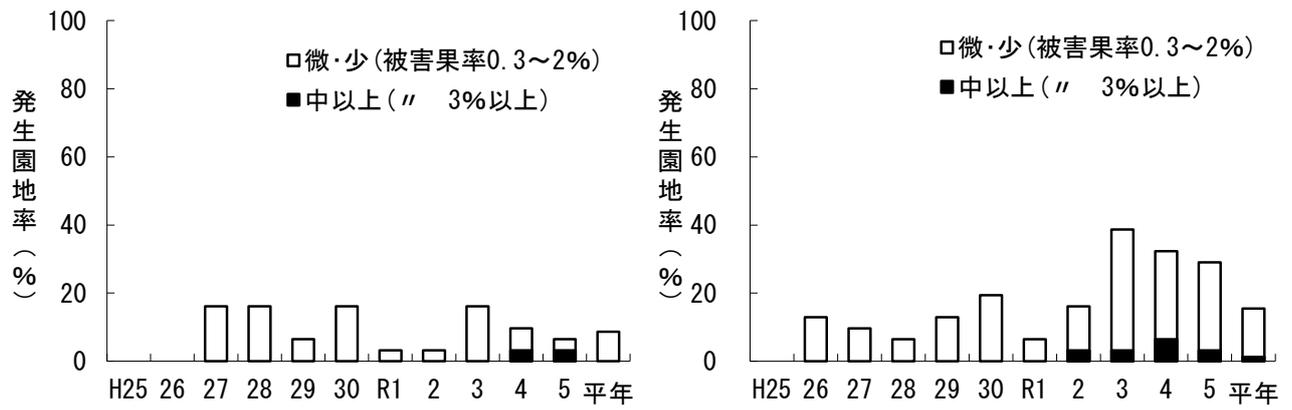


図22 果樹カメムシ類の発生園地率の年次推移  
(ふじ、被害果、左：6月前半、右：6月後半)

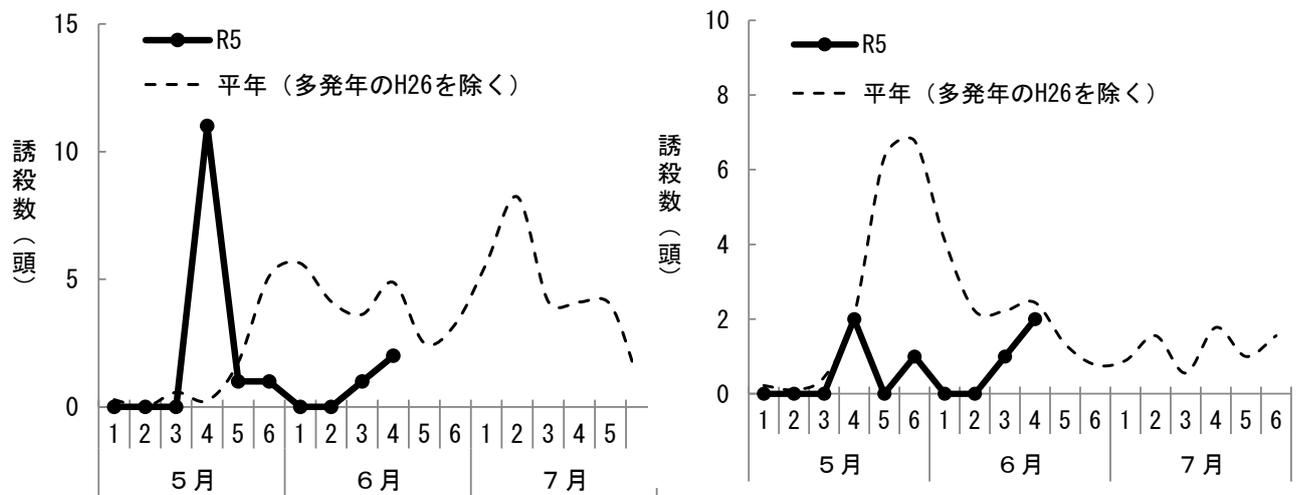


図23 チャバネアオカメムシの集合フェロモントラップでの誘殺状況  
(左：基準圃場 (北上市成田)、右：盛岡市川目)

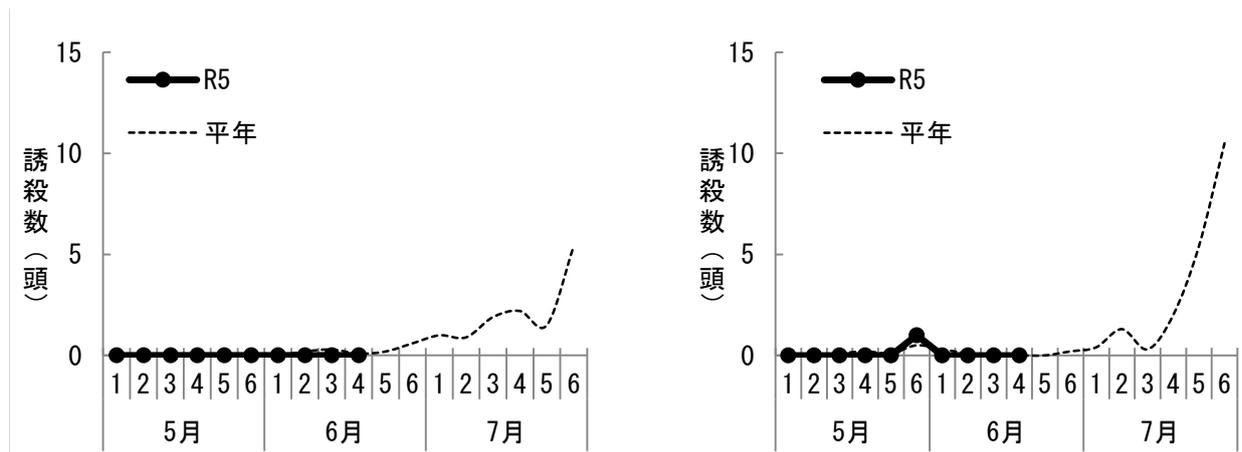


図24 クサギカメムシの予察灯への誘殺状況 (左：北上市成田、右：盛岡市川目)